



鈴木社長メッセージ

挑戦から飛躍へ ～「当たり前」を超えていこう

皆さま、新年あけましておめでとうございます。
すこやかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2025年は、物価上昇や人手不足、そしてインバウンドの急増など、私たちを取り巻く環境が大きく変化した一年でした。そのような環境変化の中でも、社会的な役割を果たすことができたのは社員の皆さまの取り組みの賜物であり感謝申し上げます。

昨年は「スタート・アクセス」のスローガンのもと、重点施策実行の年と位置付け、中央線の普通列車グリーン車サービスの導入、TAKANAWA GATEWAY CITYやekismさいたま新都心の開業、清掃CBM契約のスタートやロボット・新資機材の積極的導入など、これまで計画を進めてきた大きな施策をスタートさせ、安定的に稼働させることに取り組みました。

JR東日本グループ駅舎清掃競技会では、コンコース部門の最優秀賞を受賞したほか、全国ビルメンテナンス協会の主催するビルクリーニングサービスグランプリ2025でも、総合2位のチームに贈られる東京都知事賞を受賞するなど、社員の活躍やアクセス品質が高く評価された年でもありました。これらは、現場第一線の皆さまをはじめとする全社員が一丸となって取り組んだ成果であることは言うまでもありません。社員の皆さまの取り組みに改めて感謝申し上げます。



昨年発表されたJR東日本グループの新しい経営ビジョン「勇翔2034」およびモビリティ中長期成長戦略「PRIDE & INTEGRITY」では、JR東日本グループはモビリティと生活ソリューションの2軸経営の強みを活かし、成長していくこと、そして自分の仕事に誇りを持ち誠実に取り組むことが示されました。JR東日本環境アクセスはJR東日本グループの2軸どちらにも貢献している企業です。社員一人ひとりがお客さまからの「信頼」を基盤として、安心と感動をお客さまに提供できるよう引き続きチャレンジを続けて行きましょう。

2026年はその成果をさらに一歩進め、より働きやすく、より持続可能な事業運営を実現する年にしていきます。JR東日本環境アクセスの強みは、なんといっても約3,400名の多様な人材に支えられていることであり、社員一人ひとりの挑戦が「当たり前」を超えていくことにつながります。それぞれの現場で、知恵や経験を活かして働いてくださっている皆さまの力が、事業運営の原動力となるのです。

そのために、社員の皆さまがやりがいを持って働ける職場づくりをさらに進めていきます。職場環境の改善や待遇の向上にも力を入れ、制服は1月からは速乾性と機能性を高めた仕様に切り替えました。

また、清掃CBMの深度化とリサイクル事業の拡大

にも注力します。

清掃CBMでは、昨年スタートした千葉駅ビルでの取り組みを踏まえ、新たな大規模駅ビルでの導入をめざします。あわせて、ロボットやケミカル、新資機材などの最新の技術を総動員して作業効率を高め、社員の負担軽減と長く働ける環境づくりを進めていきます。これらの取り組みを通じてアクセス品質を高めることにより、オーナー様との信頼関係をさらに深め、契約への反映を加速させることで、双方にメリットのある仕組みを築いていきたいと考えています。

資源循環事業では、昨年10月に始まったJR東海の大井車両基地・品川駅での廃棄物収集運搬業務を皮切りに、実績を積み重ねながら収益向上を図ります。

TAKANAWA GATEWAY CITYのバイオガス施設運営では、課題を一つひとつ解決し、JR東日本グループが一体となって誇れるモデル運営の確立をめざします。

今後、社会の変化はますます大きくなります。3月28日にはTAKANAWA GATEWAY CITYとOIMACHI TRACKSの同日グランドオープンも控えており、当社の事業フィールドもますます広がっていきます。これまでのやり方だけでは乗り越えられない課題が増えてくるでしょう。だからこそ、「当たり前」を超える取り組みが必要になってくるのです。社員一人ひとりが主役となって、10年後のJR東日本環境アクセスを作り上げるという思いをもって、安心と感動を未来へつないでいこうではありませんか。

社員の皆さまが安心して働くことができ、「アクセスで働いていてよかった」と感じられる瞬間が、今年もたくさん訪れることを願っています。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

代表取締役社長

鈴木 均

社長室より

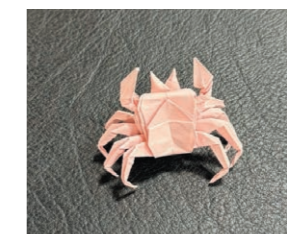
3枚の作品はいずれも折り紙のカニで、作品の年代は左から約200年前の江戸時代、約120年前の明治時代、約60年前の昭和時代となります。このカニと出会ったのは、私が幼稚園の時に初めて買ってもらった折り紙の本でした。当時の私には途中のカニの姿になる部分の折り方がどうしても理解できず、長い間挫折したままでした。ところが、中学生になったある日、ふとひらめくものがあり、折り図に忠実に折り目をつけて折ってみたところ、長年の懸案だったカニを完成

させることができました。難解だったその一枚の折り図の中に、手の込んだ何段階もの作業が込められていたのです。その後、このカニのルーツとなる江戸時代・明治時代の作品の折り図を入手し、今度は難なく再現することができました。特に江戸時代のカニは見た目がずいぶん違いますが、和紙の特徴を生かした最後の仕上げの部分が違うだけで、ほぼ同じ折り方で作られています。

折り紙 カニ



江戸時代



明治時代



昭和時代